

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会議名	第7回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日時	令和7年11月27日(木) 午後5時30分～午後7時30分	
会場	山ノ内町文化センター 3階ホール	
出席・傍聴人数	出席 20人 / 欠席 9人	傍聴者 5人
会議内容	<p>【報告事項】</p> <p>(1)前回委員会の会議結果について(資料1) (2)南小学校のコミュニティスクールの取り組みについて</p> <p>【会議事項】</p> <p>(1)学校づくりシンポジウムの開催結果について(資料3) (2)山ノ内町立統合学校整備基本方針(案)について『グループ討議』(資料4) 4グループが初めに①「新しい学校のコンセプトや学習内容について」、②「新しい学校の施設・設備について」、③「新しい学校の開校と4つの学校の閉校」、④「地域連携や交流について」の4つのテーマの意見を付箋に書き出した。その後、①～④のテーマごとにグループを再編成し、さらに議論を深めた。テーマグループごとに作成した模造紙を見ながら、議論の内容の共有を図った。</p>	
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回学校づくり準備委員会 12月17日(水)17:30～ 山ノ内町文化センター 	
会議概要及び質問・意見等	<p>【学校づくりシンポジウムについての感想・意見】</p> <p>○オンラインでシンポジウムの講師を務めた猿渡智衛氏と伴美佐子氏が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論の雰囲気がよく、特に中学生2名の参加と率直な意見に感動した。 ・中学生から出た「大人が私たちのことをしっかり考えてくれるのが分かってよかったです」というコメントが特に印象に残った。 ・素晴らしい中学生を育んできたのは、山ノ内という地域と家庭にある。 ・こどもと大人が一緒に実現していくプロセスを大切にできる山ノ内町のポテンシャルはすごい。 ・山ノ内町の取り組みは、こども家庭庁が掲げる「意見表明」「自己選択」「自己決定」の先の「自己実現」を目指す、画期的な事例である。 ・大人もこどもたちの話をよく聞いて準備を進めていく必要がある。 ・こどもの考え方や意見をどうやって吸い上げ、教員と共有していくかをマネジメントしていくことが大事である。 <p>《今後の課題と提言(改善点)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員の巻き込みや参画に力を入れ、具体的な仕組みや仕掛けをつくり、決定事項などへの受動的な参加ではなく、準備段階から一緒になってつくれていくことが大切。 ・学校施設が何でもできる場所になると、すべてを学校で完結してしまい、地域からこどもたちの姿がなくなる現象が起こりうる。 ・地域でもできることはあえて地域でやるようにすることで、地域全体を学びのフィールドにする必要がある。 ・学校統合を機に「地域の中の学校」という視点で施設や活動のあり方を考える。 	

会議概要及び 質問・意見等	<p>【統合学校整備基本方針（案）についてのグループ討議まとめ】</p> <p>A グループ：新しい学校のコンセプトや学習内容</p> <p>【学習内容・教育プログラムに関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校統合後だけでなく統合前から、これまでのそれぞれの地区に特化した ESD から、町全体をフィールドとした ESD を展開する方法を考える必要がある。 ・国際交流を通じて英語だけでなく、多様な言語に触れ、多様性を知る機会を重視する。 ・持続的な学び（販売活動や商品開発など）ができる場所を、学校や廃校跡地などに設け、地域との関わりを持たせる。 <p>【スポーツ・芸術教育に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術分野では町内の美術館やアーティストとの交流を深め、こどもたちの表現力を豊かにしたい。 ・スポーツ分野ではスキー教室を充実させ、アスリートの知見も活用し、怪我をしない健康で豊かな体を日常的な遊びを通じて育みたい。 <p>【学校のあり方・表現に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内外外国人住民にコミュニティ・スクールの活動体に参加してもらい、安全を担保した上での多様な交流を実現したい。 ・卒業生を講師としてシンポジウムを開催し、「みんなの学校」という意識付けを図りたい。 <hr/> <p>B グループ：新しい学校の施設・設備</p> <p>【ランチルーム・カフェ・交流スペース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の機能を持つランチルームと、カフェ機能を隣接させることで、イベント時の開放や地域との行き来を容易にするとよい。 ・カフェ（ランチルーム）とは別にキッチンを設け、給食以外の一般の食事も提供できるように線引きを行う。 ・こどもたちが壁板の貼り付けなどに関わり、以降の入学生も作り続ける「未完成ルーム」のような、こどもたちが参画するコンセプトにしたらどうか。 <p>【体育館・教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒だけでなく大人も自由に使えるオープンスペースを設ける。 ・体育館とグラウンドの利用場所を分け、小さい子と大きい子の利用に工夫をする。 ・体育館にエアコンを設置する。 <p>【その他設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室は4つ（小さめ）ほしい。 ・机は角のないものを使用する。 ・プレゼン（発表）がいつでもできる設備、ピロティ（クラブ活動などに使える）を設置する。 ・トイレや手洗いは、こどもが操作を学べるよう全て自動にはしない。 ・アイデア次第で変えられるよう、つくり込みすぎず柔軟性を持たせる。
------------------	--

<p>会議概要及び 質問・意見等</p>	<p>C グループ：新しい学校の開校と4つの学校の閉校</p> <p>【閉校に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉校に際しては、コミュニティスクールの会議体での議論を深め、活用しながら地域が中心に計画的に準備を進めてよいのではないか。 ・これまでの学校の活動記録を映像として残す取り組みをしてみてはどうか。 ・閉校式を楽しいイベントにする。 <p>【開校後の校歌・校章に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校の校歌・校章は、開校後に子どもたちがつくるという方法もある。 ・校歌・校章には、山ノ内町を象徴する地域ごとのキーワードを盛り込んでもよいかもしない。 ・みんなの思いを込めて長い校歌（信濃の国みたいな）をつくるのもよい。 <p>【学校運営・子育て支援に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA の在り方については、しっかりと明記していくべきである。 ・子育て支援センターと保健センター機能を複合化して全てそこで完結できるようになるとよい。（妊娠から検診、保育園まで）。 <p>【プールについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だけの利用を考えると維持管理が大変であり、利用者も限られることから、プールを設置する場合は、町営のもの（屋内プール）とし、子どもたちが利用できるとよい。 <p>【新しい学校開校後の放課後の過ごし方に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の居場所や活動場所は学校の近くにあってもらいたい。 <hr/> <p>D グループ：地域連携や交流のまとめ</p> <p>【新しい学校と地域の連携組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティルーム/地域連携室をつくるなら、一般の人が使いやすいようコーディネーター的な職員を配置すべきである。 ・学校を公民館施設も兼ね備えた、地域の人も入れる拠点としたい。 ・学校を拠点に地域の祭りや文化活動（大人が集まり騒げる）の場があるとよい。 <p>【地域組織の再編と交流の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの育成会が集結する場を作り、東西南北の文化や情報を共有し、組織乱立を解消することも見越す必要があるのではないか。 ・現在は特定地域の文化であっても「山ノ内町のもの」として皆でシェアし、地域の垣根をなくしていく工夫が必要。 ・外国人住民と子どもの交流においては、入管関係など現実的な課題をチェックし、安全性を担保した上で実施する必要がある。それには学校だけでは難しいのでいろいろな人がかかわることが大事だと思う。 <p>【地域住民の学校への関わり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を「10年生」と認定し、学校の一員としての意識と関わりをもたせる。 ・地域のお祭りへの参加など、ハードルが低い形で、高校生や中学生に地域活動での成功体験を積ませる機会が大切ではないか。 ・地域の大人が気軽に学校に関われるよう、「子どもを応援サポーター」など、役
--------------------------	---

会議概要及び 質問・意見等	<p>割や職を教育委員会などが認定する仕組みをつくるとよいのではないか。</p> <p>《グループワーク総括》伏木先生からのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none">・学校教育施設の枠組みを超え、山ノ内町全体のコミュニティづくりに関する意識が高まっている。・学校内と地域内のマイノリティ（不登校のこども、外国籍住民など）への配慮が示され、誰もが過ごしやすいまちづくりの視点が見られたが今後も大事にしてほしい。・卒業生や地域の大人が関わる「10年生」などのアイデアは、受け皿が広い大人の関わり方を象徴している。10という数字にこだわる必要はないのではないか。・学校の施設やルールを「未完成」として残し、入学してくるこどもたちと教職員が一緒になって作り上げていくという考え方は重要である。・PTA活動は一律公平なルールに無理がきいているため、「やりたい人集まれ」という多様性を担保した新しいルールを山ノ内でつくることを検討すべきである。
------------------	---